

教育哲学会

第58回大会プログラム



2015年10月10日(土)・11日(日)

於：奈良女子大学

共催：奈良女子大学教育システム研究開発センター

大会日程

第1日 10月10日(土)	第2日 10月11日(日)
9:30 受付 (文学系S棟1階 西ホール(ラウンジ横))	9:00 受付 (文学系S棟1階 西ホール(ラウンジ横))
10:00~12:30 一般研究発表 (文学系N棟2階(N201、N202) 3階(N301、N302))	9:30~12:00 一般研究発表 (文学系N棟2階(N201、N202) 3階(N301、N302))
12:30~13:30 昼食・休憩 全国編集委員会 (生環系A棟1階 生活環境学部会議室)	12:00~13:00 昼食・休憩 課題研究打ち合わせ (文学系S棟1階S128)
研究討議打ち合わせ (文学系S棟1階S128)	13:00~15:45 課題研究 (文学系S棟2階S235)
13:30~16:30 研究討議 (文学系S棟2階S235)	16:00~18:00 ラウンドテーブル (文学系N棟1階(N101)、2階(N201、N202))
16:45~17:45 総会 (文学系S棟2階S235)	
18:00~20:00 懇親会 (文学系S棟1階 ラウンジ)	

大会前日

10月9日(金)

16:30~18:30 全国理事会(生環系A棟1階 生活環境学部会議室)

参加要領

○受付 文学系S棟1階 西ホール(ラウンジ横)

○大会参加費 3,000円(学生2,000円)

○懇親会費 4,000円(学生2,500円)

○一般研究発表 発表20分/質疑応答5分

※万一発表を取りやめる場合、発表者は速やかに大会準備委員会にご連絡ください。

なお、欠席の場合、発表時間の繰り上げは行いません。大会アドレス: kyotetsu2015@gmail.com

※昼食について、学生食堂は10月10日(土)のみ営業しています。11日(日)は大学近辺の飲食店やコンビニエンスストアをご利用ください。

※学内へのお車での入構はできません。公共交通機関でおいでください。

特別な理由でお車で越しになる必要がある場合は、事前に大会準備委員会にご相談ください。

第1部会：フランス現代思想（文学系N棟2階 N202）

司会：室井麗子（岩手大学）・坂倉裕治（立教大学）

- 10：00 ドゥルーズとガタリの哲学における「アジャンスマン」概念についての一考察
稲田祐貴（東京大学大学院・院生）
- 10：25 ジャン＝リュック・ナンシーの共存在論
—教育の共同性を問いなおす—
木下 慎（東京大学大学院・院生）
- 10：50 「へだたり」を超えることの意味と教育
—リクール解釈学におけるモチーフとしての「疎隔」に注目して—
朝岡 翔（京都大学大学院・院生）
- 11：15 レヴィナス思想における他者との関係としての「教え」
—その非暴力性と特殊性の意義について—
福若真人（京都大学大学院・院生）
- 11：40 他者へ向かう動向としての言葉
—E.レヴィナスにおける接触と近さをめぐる考察—
山口美和（長野県短期大学／東京大学大学院・院生）
- 12：05 全体討議（～12：30）

第2部会：英米圏の思想・哲学（文学系N棟2階 N201）

司会：生澤繁樹（上越教育大学）・佐藤隆之（早稲田大学）

- 10：00 C・ライト・ミルズと「ポストモダンの自己」
高田正哉（東京大学大学院・院生）
- 10：25 「反省的实践」における「反省」概念の考察
—知の生成プロセスとしての「反省的实践」—
蓮尾浩之（大阪府立大学大学院・院生）
- 10：50 E. ゴッフマンにおける「スナップショット」的思考の形成過程と教育学的意義
京極重智（大阪大学大学院・研究生）
- 11：15 R. ブランダム の明示化プロジェクトの教育学的意義
—条件文を用いた行為理由の明示化と人間形成—
杉田浩崇（愛媛大学）
- 11：40 二重意識を超えて
—自己との出会いについてのリュス・イリガライの議論—
虎岩朋加（敬和学園大学師）
- 12：05 全体討議（～12：30）

第3部会：現代哲学と教育（文学系N棟3階 N302）

司会：真壁宏幹（慶應義塾大学）・田端健人（宮城教育大学）

- 10:00 M.シェーラーの人間形成論における他者の問題
—「共同感情」の概念に着目して—
盛下真優子（東北大学大学院・院生）
- 10:25 フッサール現象学における感情の問題—
—シェーラーとの比較を通して—
武藤真理子（東京大学大学院・院生）
- 10:50 ハンナ・アレントにおける“現れていない”ことの多層性
石神真悠子（東京大学大学院・院生）
- 11:15 教育における「権威」の位置
—H.アレントの暴力論をてがかりに—
田中智輝（東京大学大学院・院生）
- 11:40 K・O・アーペルの「共同責任」概念の教育学的意義
丸橋静香（島根大学）
- 12:05 全体討議（～12:30）

第4部会：日本の教育思想（文学系N棟3階 N301）

司会：松下良平（武庫川女子大学）・橋本美保（東京学芸大学）

- 10:00 初期生活綴り方運動における自己概念の特異性
山田直之（広島大学大学院・院生）
- 10:25 野村芳兵衛における「子ども」概念
—「育ちつつある」存在として—
富澤美千子（奈良女子大学大学院・院生／日本学術振興会特別研究員）
- 10:50 田中耕太郎の教育目的論の思想史的考察
藤原 敬（立教大学大学院・院生）
- 11:15 和田修二の初期研究における存在論的根本問題とその乗り越え
—M・アンリの普遍的存在論の視座から—
崎浜 聡（大阪大学大学院・院生）
- 11:40 全体討議（～12:05）

12:30~13:30 昼食・休憩 (S231 講義系学文) 青森大学学芸学部:会館3階
 (学大青森城宮) 全国編集委員会 (生環系A棟1階 生活環境学部会議室)
 研究討議打ち合わせ (文学系S棟1階 S128)

13:30~16:30 研究討議 (開催校企画)
 (生環系・宗学大平大京東) 千野真穂友

教育学的欲望としてのオルタナティヴ
——超越性をめぐって——

- 報告者: 岡部美香 (大阪大学)
- 田中智志 (東京大学)
- 鷹野克己 (立命館大学)
- 司会: 小野文生 (同志社大学)
- 西村拓生 (奈良女子大学)

16:45~17:45 総会 (10C1 講義系学文) (文学系S棟2階 S235)

18:00~20:00 懇親会 (文学系S棟1階 ラウンジ)

第1部会：ドイツの教育思想（文学系N棟2階 N202）

司会：井谷信彦（武庫川女子大学）・白銀夏樹（関西学院大学）

- 9:30 ヘルダーの人間形成論における自然と歴史の関係
寺川直樹（東北大学大学院・院生）
- 9:55 陶冶と構想力
—フンボルト陶冶論における美学について—
伊藤敦広（慶應義塾大学大学院・院生）
- 10:20 ボルノーにおける実存主義克服の問題
—新たな庇護性の教育学的意義—
菅沼静香（早稲田大学大学院・院生）
- 10:45 解釈学的論理学における知識習得と「語り方」の考察
田中潤一（大谷大学）
- 11:10 レオナルド・ネルソンの「ソクラテス的方法」
太田 明（玉川大学）
- 11:35 全体討議（～12:00）

第2部会：京都学派の思想（文学系N棟2階 N201）

司会：森田伸子（日本女子大学・名誉教授）・田中每実（武庫川女子大学）

- 9:30 京都学派としての勝田守一
桑嶋晋平（東京大学大学院・院生）
- 9:55 京都学派の教育思想—西田幾多郎・木村素衛・高坂正顕—
山田真由美（慶應義塾大学大学院・院生）
- 10:20 木村素衛の教育学における身体性
門前斐紀（京都大学こころの未来研究センター）
- 10:45 京都学派から見た「観照的・マインドフル教育学」
—学び・スピリチュアリティ・社会の葛藤—
セビリア・アントン（九州大学）
- 11:10 全体討議（～11:35）

第3部会：現代教育の課題（文学系N棟3階 N302）

司会：下司 晶（日本大学）・片山勝茂（東京大学）

- 9：30 L.ウィトゲンシュタインの倫理教育論
国吉秀樹（法政大学大学院・院生）
- 9：55 ガート・ビースタの「無知な市民」と測定の時代批判：教育評価論的視点から
安部高太郎（東京大学大学院・院生）
- 10：20 誰の「戦争の記憶」を継承するのか
—戦争記憶空間が戦争に抵抗するメディアとして機能する条件に関する一考察—
高橋 舞（帝京平成大学）
- 10：45 ヴァルドルフ教育における人類の進化と言語の教育
—言語教育カリキュラムの比較検討を通じて—
柴山英樹（日本大学）
- 11：10 グローバル資本主義・政治・教育
田中裕喜（滋賀大学）
- 11：35 全体討議（～12：00）

第4部会：人間形成の理論（文学系N棟3階 N301）

司会：山名 淳（京都大学）・伊藤敏子（三重大学）

- 9：30 ベルナール・スティグレルの教育思想
李 舜志（東京大学大学院・院生）
- 9：55 玩具と子どもの人間形成論
久保田健一郎（大阪国際大学短期大学部）
- 10：20 純粹経験と一般経験の差異をめぐる考察
伊澤貞治（純粋幼稚園）
- 10：45 阿久悠における「自立」の論理
—作詞によって語られる「生身」—
上坂保仁（常葉大学）
- 11：10 ビルドゥングスロマン（自己形成小説）と教育学の対立と交錯
—「物語を愉しむ会」を続けてきて気づいたこと—
宮澤康人（東京大学・名誉教授）
- 11：35 全体討議（～12：00）

12:00~13:00 昼食・休憩

課題研究打ち合わせ

(文学系S棟1階 S128)

13:00~15:45 課題研究(学会理事会企画)

(文学系S棟2階 S235)

教育哲学の「現場」としての高等教育

——教育哲学のフロンティア(2)——

提案者:相馬伸一(広島修道大学)

早川操(相山女学園大学)

渡邊隆信(神戸大学)

司会者:坂越正樹(広島大学)

松浦良充(慶應義塾大学)

16:00~18:00 ラウンドテーブル

(1) 教育活動における言葉とモノ

(文学系N棟1階 N101)

企画者:今井康雄(日本女子大学)

渡辺哲男(立教大学)

(2) The Task of Philosophy of Education in East Asia

(東アジアにおける教育哲学の課題)

(文学系N棟2階 N201)

企画者:加藤守通(上智大学)

(3) 光を教育哲学する

——プラトン、コメニウスからフィンク、パトチカへ——

(文学系N棟2階 N202)

企画者:田端健人(宮城教育大学)

教育学的欲望としてのオルタナティヴ ——超越性をめぐって——

報告者：岡部美香（大阪大学）
田中智志（東京大学）
鷹野克己（立命館大学）

司 会：小野文生（同志社大学）
西村拓生（奈良女子大学）

私たちはこの学会で、教育と称される出来事について、教育をめぐる思想について、研究し、議論しています。その営みを駆動するものは何でしょうか。

多くの場合、その根底には、〈今、ここ〉でのあり方ではない、別様の、よりよい教育——それをここでは「オルタナティヴ」と呼んでみます——への志向があるように思われます。それは狭義のいわゆるオルタナティヴ教育に限りません。たとえば「近代教育学」然り。「新教育運動」然り。「戦後教育学」然り。それらを批判する思想・運動も、また然り。オルタナティヴ志向というのは教育学という営みの根底にある普遍的欲望ではないか、とさえ思われます。仮に哲学というのがあらゆる自明性の批判的な問い直しであるとしたら、この志向性そのものも私たちの問いの対象となるべきでしょう。また、この志向性がその志を裏切って、或る固着した構造に閉塞している可能性もあるかもしれません。だとしたら、その志向の仕方も問われるべきでしょう。

その際に、ここで原理的な検討の軸として置いてみたいのが「超越」をめぐる問いです。この言葉で普通に想起されるのは教育と宗教、哲学と宗教の関係かもしれませんが。しかしそれを、教育が〈今、ここ〉の〈彼方〉に向き合い、〈彼方〉へと越えてゆくことの可能性／不可能性の問題として、より広く一般的に理解するならば、それは直ちにオルタナティヴの志向性をめぐる問いにつながります。たとえば、共同体や社会の水平方向への超越と、人間を超えた聖性の垂直方向への超越。あるいは、教育と人間にとって外部の超越性と、むしろそこに内包される、いわば内在的超越性。外部からもたらされるオルタナティヴと、内部へと遡求するオルタナティヴ。——これらの様々な〈越え方〉、様々なオルタナティヴへの志向性を原理的に、あるいは思想史的に検討することを通じて、この研究討議では、教育学という営みを駆動する欲望としての「オルタナティヴ」について根本的に問うてみたいと考えます。

教育哲学の「現場」としての高等教育 ——教育哲学のフロンティア(2)——

提案者：相馬伸一（広島修道大学）
早川 操（椋山女学園大学）
渡邊隆信（神戸大学）

司 会：坂越正樹（広島大学）
松浦良充（慶應義塾大学）

昨今、さまざまな大学改革が矢継ぎ早に展開されるなかで、日本の高等教育研究は、教育哲学的な視点からの研究を抜きにしては語れない状況にあると言ってよいだろう。現在はまだ決して主流とは言えないまでも、教育哲学をベースにした大学論や教養論、大学における教育や学習・学生の経験に関する原理的・臨床的研究が着実に発信・蓄積されてきている。これは偶然なのか。それとも、たまたま教育哲学畑の有力な研究者が大学における教育の問題に関心を持つようになった、ということなのか。あるいは教育哲学的な視点と高等教育というフィールドには何らかの親和性や必然性があるのだろうか。

この課題研究では、教育哲学的な研究が高等教育を「現場」とすることの意味と可能性を探りたい。教育哲学、あるいはより広く理論的教育学ないし教育学における理論的・原理的な考察は、これまでどのように高等教育に関わってきたのだろうか。また、教育哲学者が高等教育に関わる時、経験的・実証的な教育研究（教育社会学、比較教育学、教育行政学、教育方法学など）とは異なるどのような独自性を主張できるのだろうか。

こうした問題を、単に理論的・理念的に語るだけでなく、実際的なフィールドに即して議論してゆきたい。たとえば大学における学習やカリキュラムをめぐる諸問題について、教育哲学はどのようなアプローチをとりうるのか。また大学のガバナンスや組織運営について、教育哲学はどのようなはたらきをもつのか。さらに教育哲学者の多くが当事者として従事している教員養成は、大学や高等教育の現状のなかでどのように位置づけられるのか、またその将来的な課題はどのようなものか。このような大学や高等教育における実際的な諸問題について、あわせてそれを構成してきている歴史的・社会的な文脈をも視野に入れながら議論を深めることをめざしたい。

教育活動における言葉とモノ

企画者

今井康雄(日本女子大学)・渡辺哲男(立教大学)

提案者

真壁宏幹(慶応義塾大学)・小松佳代子(東京芸術大学)・渡辺哲男(立教大学)・柴山英樹(日本大学)

指定討論者

森田伸子(日本女子大学・名誉教授)・山名淳(京都大学)

<言語主義 vs. 事物主義>という対置に表れているように、「言葉」の系列と「モノ」の系列は教育学において対立的に捉えられる傾向が強かった。しかし、このような図式的な対置は思想的な現実からかけ離れている。このことは森田伸子(『文字の経験』)や北詰裕子(『コメニウスの世界観と教育思想』)の研究が明らかにしてきた。では、現実の教育活動において、両者はどのように関連しあっているのだろうか。近年の「言語活動の充実」のかけ声は、「モノ」の系列を置き去りにした「言葉」の一人歩きを知らず知らずのうちに促進してしまっていないだろうか。本ラウンドテーブルでは、意味や意図に回収できない対象(モノ)が教育的文脈において持つ意義に着目する。そして、モノへの実践的なアプローチと理論的なアプローチを交錯させることを通して、教育活動における言葉とモノの関係について理解を深めるような議論を展開したい。

The Task of Philosophy of Education in East Asia
(東アジアにおける教育哲学の課題)

企画者・司会

加藤守通(上智大学)

提案者

Hung, Ruyu (National Chiayi University, Taiwan)

Kwak, Duck-Joo (Seoul National University)

加藤守通(上智大学)

東アジアは儒教など共通の伝統を持ち、近代化という共通の課題に直面してきた。現在進行しているグローバル化と国際化は、東アジアにおける人間の移動を飛躍的に促進させている。教育の世界においても、国際化に伴う、東アジア諸国からの留学生の増加は著しい。

このような状況は、東アジアの教育哲学にとって新しい課題を提起した。欧米の研究機関での限られた交流ではなく、東アジアの中での活発な研究交流の可能性である。

その際、儒教のような東アジアの教育思想を長く形作ってきた伝統の再検討は、ひとつの出発点となるだろう。

もっとも、このことは、欧米とは異なった独自の東アジア的教育哲学を確立することを意味しない。大事なことは、教育に関する哲学的な議論と談話を活性化させ、継続することである。

コロキウムでは、韓国と台湾の気鋭の研究者二人をお招きし、東アジアにおける教育哲学の課題について共に考えてみたい。なお、言語は英語を用いる。

〔ラウンドテーブル3〕

【第2日目】16:00~18:00

文学系N棟2階 N202

光を教育哲学する ——プラトン、コメニウスからフィンク、パトチカへ——

企画者・司会

田端健人 (宮城教育大学)

提案者

相馬伸一 (広島修道大学)・武内 大 (東洋大学)

指定討論者

井谷信彦 (武庫川女子大学)

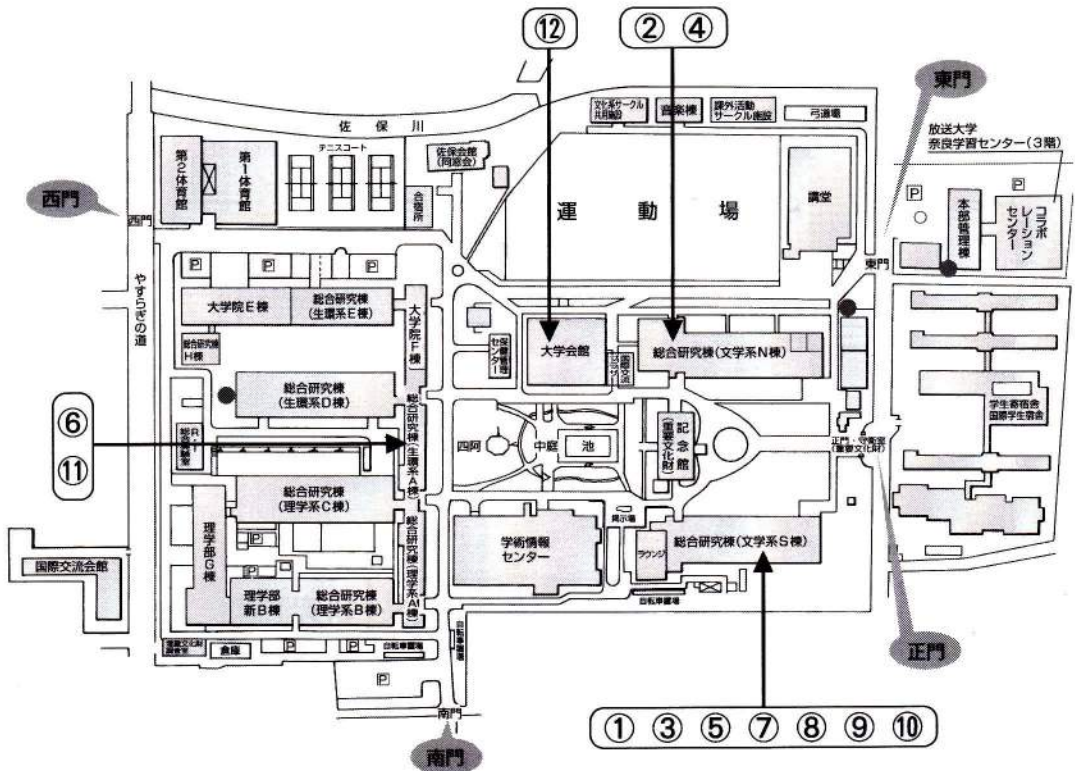
影を本物と見ている状態から、太陽の光を見るように、魂と身体の全体を向け変えることが、プラトンにとってのパイデア (教育) だった。地上の迷宮に絶望したコメニウスの巡礼者を救済したのは、自己に内在する神の光だった。時代をくぐり、ハイデガーは、プラトン「洞窟の比喩」に、存在の明るみとしての自らの思索を重ね合わせた。

共にハイデガーに学んだフィンク (1905-1975) とパトチカ (1907-1977) は、こうした系譜を光の形而上学として批判的に克服する教育哲学を構想した。フィンクは主にプラトンと、パトチカはコメニウスと対決したが、それはハイデガー存在論の克服の道でもあった。

光の形而上学が、人間中心主義 (ヒューマニズム) や合理主義や西洋中心主義と深く結びつき、これらの限界や破綻が自覚される今日、この二人の共同戦線的な思想を吟味することで、20世紀教育哲学のもう一つの系譜とその可能性を探りたい。

奈良女子大学 大会会場

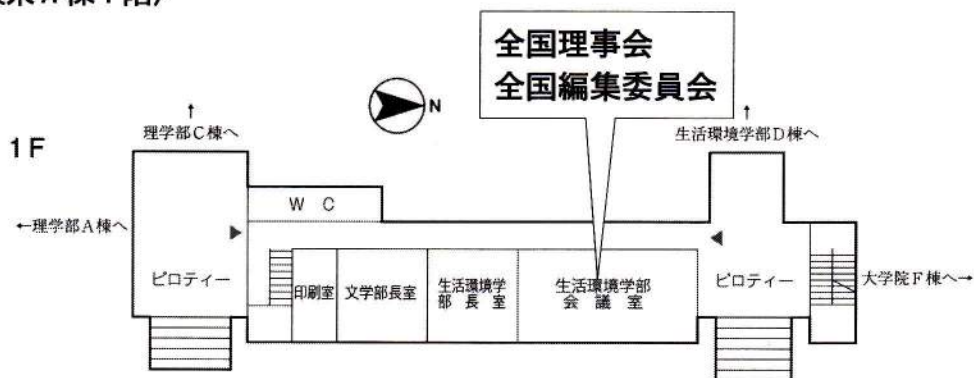
〈キャンパスマップ〉



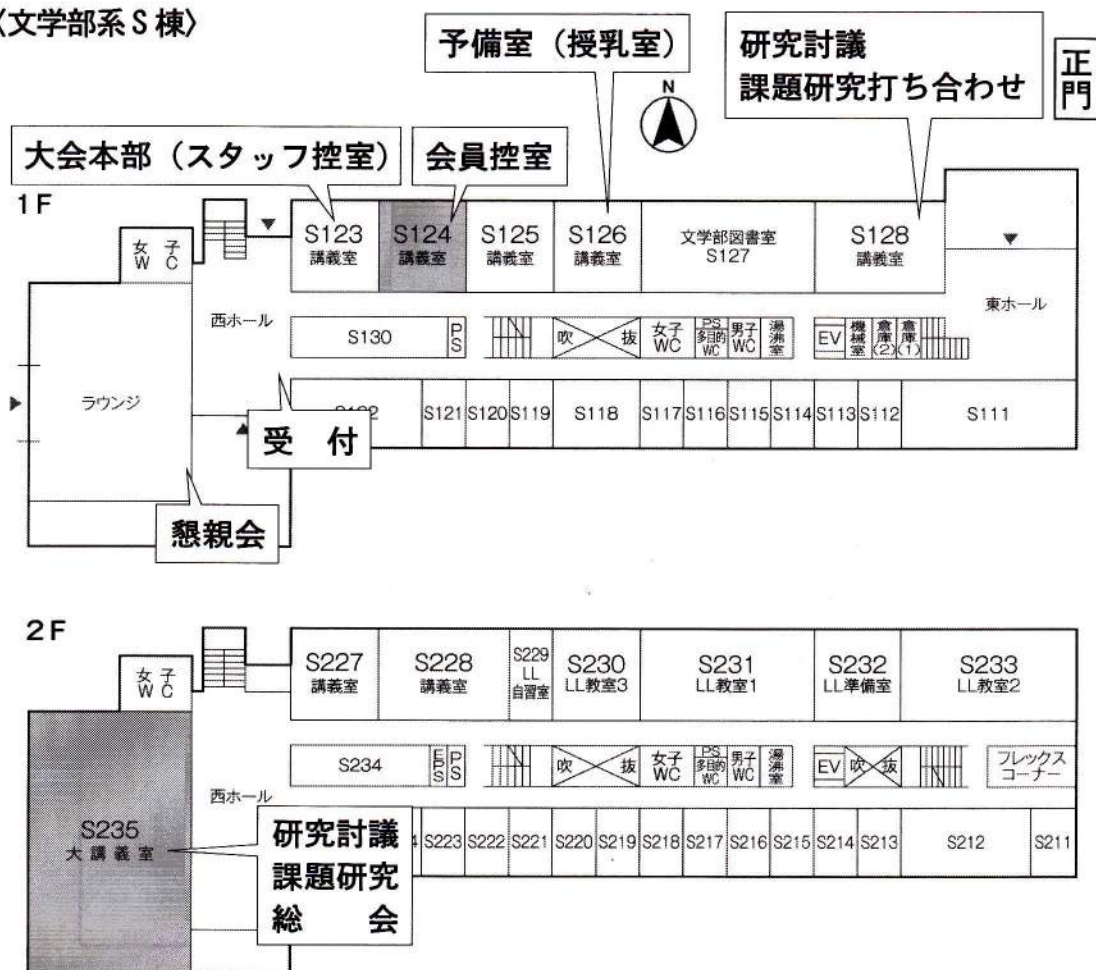
- ①受付：文学系S棟1階 西ホール（ラウンジ横）
- ②一般研究発表：文学系N棟2階（N201、N202）、3階（N301、N302）
- ③研究討議・課題研究・総会：文学系S棟2階 S235
- ④ラウンドテーブル：文学系N棟1階（N101）、2階（N201、N202）
- ⑤懇親会：文学系S棟1階 ラウンジ
- ⑥全国編集委員会：生環系A棟1階 生活環境学部会議室
- ⑦研究討議・課題研究打ち合わせ：文学系S棟1階 S128
- ⑧会員控室：文学系S棟1階 S124
- ⑨予備室（授乳室）：文学系S棟1階 S126
- ⑩大会本部（スタッフ控室）：文学系S棟1階 S123
- ⑪全国理事会：生環系A棟1階 生活環境学部会議室
- ⑫学生食堂（10/10（土）のみ営業）

奈良女子大学 大会会場

〈生環系A棟1階〉

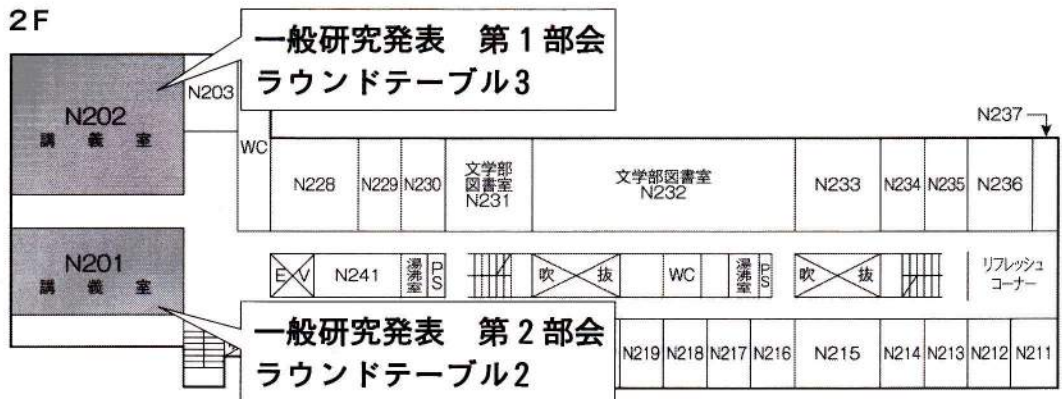
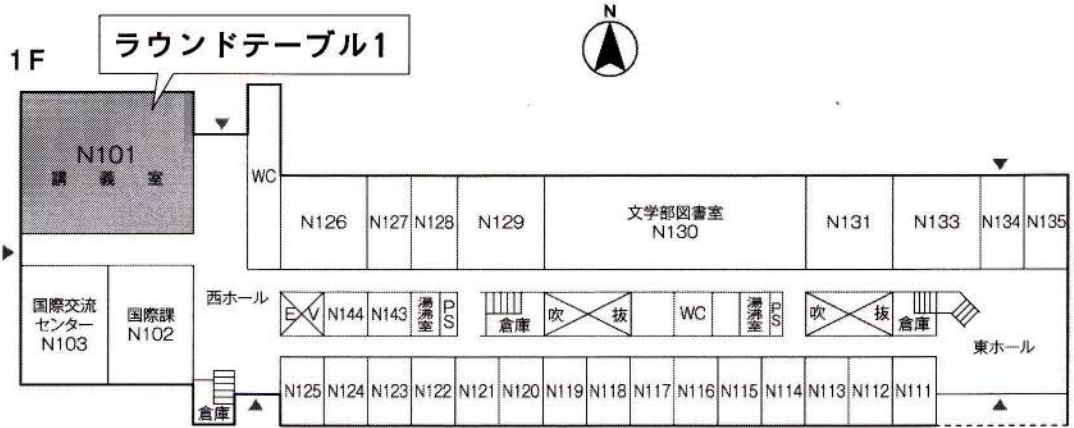


〈文学部系S棟〉



奈良女子大学 大会会場

〈文学部系N棟〉



〔教育哲学会第58回大会 準備委員会〕

委員長 西村拓生 (奈良女子大学)
事務局長 辻 敦子 (奈良女子大学)
準備委員 池田華子 (天理大学)
盧 珠妍 (奈良女子大学)
広瀬雄三 (奈良教育大学)
阪本美江 (奈良女子大学・博士研究員)
富澤美千子 (奈良女子大学・院生)
水谷亜由美 (奈良女子大学・院生)

表紙・裏表紙の装画 三野博司 (奈良女子大学・名誉教授)

教育哲学会 第58回大会



教育哲学会第58回大会準備委員会事務局

〒630-8506 奈良市北魚屋西町
奈良女子大学文学部人間科学科
西村拓生研究室気付
kyotetsu2015@gmail.com